

令和6年度
学びに向かう力推進事業
幼保小の架け橋プログラム事業
取組のまとめ

令和7年3月
滋賀県幼児期教育センター

目 次

はじめに	2
------	---

研究指定校園の取組まとめ

研究3年目

「幼保小の架け橋プログラム事業」指定校園

彦根市立彦根幼稚園、彦根市立東保育園、私立聖ヨゼフこども園、 私立るんびに一保育園、彦根市立城東小学校	3
--	---

「目指す子どもの姿に迫る主体的・対話的で深い学びの実現に向けた保育・授業の在り方～
『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を踏まえた幼保小連携を通して～」

資料 研究指定校園で作成した架け橋期カリキュラム 等

研究2年目

私立ありす保育園、私立金田東保育園、近江八幡市立金田幼稚園、 近江八幡市立金田小学校	7
---	---

「豊かな生活経験をする中で、自分の思いや考えを表現し合える子をめざして」

資料 研究指定校園で作成した架け橋期カリキュラム 等

研究2年目

甲賀市雲井保育園、甲賀市立雲井小学校	11
--------------------	----

「進取の心を育み、仲間と共に学びあう 雲井っ子の育成
～自ら考え、伝え合い、認め合う子どもを目指して～」

資料 研究指定校園で作成した架け橋期カリキュラム 等

研究1年目

高島市立静里なのはな園、高島市立新旭南小学校	22
------------------------	----

「つながりの中で たくましく学ぶ子ども
～学びのサイクルを意識した取組を通して～」

資料 研究指定校園で作成した架け橋期カリキュラム 等

研究1年目

愛荘町立秦荘幼稚園、愛荘町立秦荘東小学校	28
----------------------	----

「意欲的に学び 自分の思いや考えを表現する子どもをめざして
～思いを表現し 学びをつなげられる子～」

資料 研究指定校園で作成した架け橋期カリキュラム 等

はじめに

県教育委員会では、幼児教育と小学校教育の滑らかな接続を目指して、「学びに向かう力推進事業」を実施しています。令和2年度からは、研究指定の小学校に加配教員を配置し、週15時間程度、幼児教育施設で保育に参画するとともに、打合せや保育の準備に参加しています。今年度も、各研究指定校園では、「学びに向かう力」の育成につながる指導内容や方法の工夫改善について、研究を推進していただきました。

また、令和4年度からは、国の委託事業「幼保小の架け橋プログラム事業」を受け、指定校園には、公私や施設類型の違いを越えた幼保小接続の実現を目指し、取組を進めていただいております。この中で、すべての指定校園において、5歳児4月から1年生3月までの2年間、いわゆる「架け橋期のカリキュラム」作成にお取り組みいただいているところです。

本事業の目標は、画一的なカリキュラムの作成ではありません。カリキュラムを作成することで、子どもに関わる大人が、期待する子ども像や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」、大切にしたいことなどについて話し合い、幼児教育施設と小学校、また、幼児教育施設同士が互いの理解を深めることを大切にしています。その上で、最終的に互いの保育・授業の質を向上させること、幼保小の滑らかな接続を実現することを目指しています。

本事業の研究指定は2年間、幼保小の架け橋プログラム事業の研究指定は3年間です。ここに掲載した指定3年目（1地域）、2年目（2地域）、1年目（2地域）それぞれの取組を参考にしながら、県内各校園が実態に応じて幼児教育と小学校教育の円滑な接続に努めていただきたいと思います。

最後になりましたが、本指定事業に熱心にお取り組みいただきました指定校園ならびに、指定校園の研究を支えていただきました各市町の担当課の皆様、研究に協力いただいた職員の皆様、丁寧な御指導をいただいた講師の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和7年3月 滋賀県幼児期教育センター

**研究主題：目指す子どもの姿に迫る主体的・対話的で深い学びの実現に向けた保育・授業の在り方
～「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた幼保小連携を通して～**

1 主題設定の理由

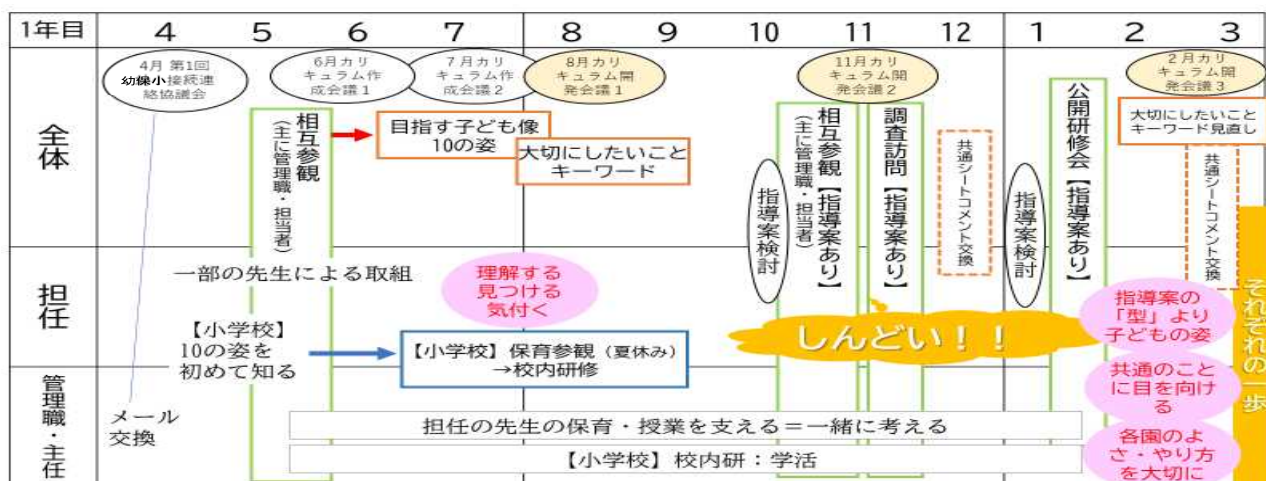
彦根市は非認知能力を系統的に育むために、幼保小接続を教育施策の重点に掲げ、接続期カリキュラムの作成を進めている。城東学区の子どもたちの課題を踏まえ、育てたい力を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」の「自立心」・「思考力の芽生え」に焦点をあて、全ての子どもたちに学びや生活の基盤を育むための具体的な接続期のカリキュラムの工夫や教育の方法について、施設類型の違いを越えた幼保小連携を推進し、接続期における教育の質的向上について研究を進めてきた。

ここでは、3年間の取組を報告する。

2 3年間のわたしたちのあゆみと子どもの姿

(1) 研究1年目

研究1年目の主な取組は、以下のとおりである。



◎お互いを知ることからのスタート ～時間をかけてじっくり～

事業の開始時は、ほぼ全員が初対面という状況だった。そこで、互いの子どもの姿や保育・授業の特徴を知るため、まず5、6月に相互参観を行った。7月には、各校園で大切にしていることや子どもの強み・弱みについて付箋に書き出し、整理しながら期待する子ども像を描き出した。共通シートの「大切にしたいこと」や「キーワード」も時間をかけて協議し、まとめた。いった。

◎遊んでいる姿から、育ちを見取るって…？ ～小学校の学び～

小学校教員にとって、遊びを通した学びの姿を見取ることは簡単ではなかった。そこで、夏休みに行った保育参観やその後の校内研修で子どもの姿や保育者の援助について語り合う研修会をもった。そのことを通して少しずつ理解が進み、子どもの「〇〇したい」を引き出すために保育者がどのような関わりをしているのかなどについて気付くことができた。しかし、それが2学期以降の授業改善に十分に生かすことができなかったのが課題である。

◎まずは、自分たちがやっていることをまとめてみよう ～カリキュラム作成へ着手～

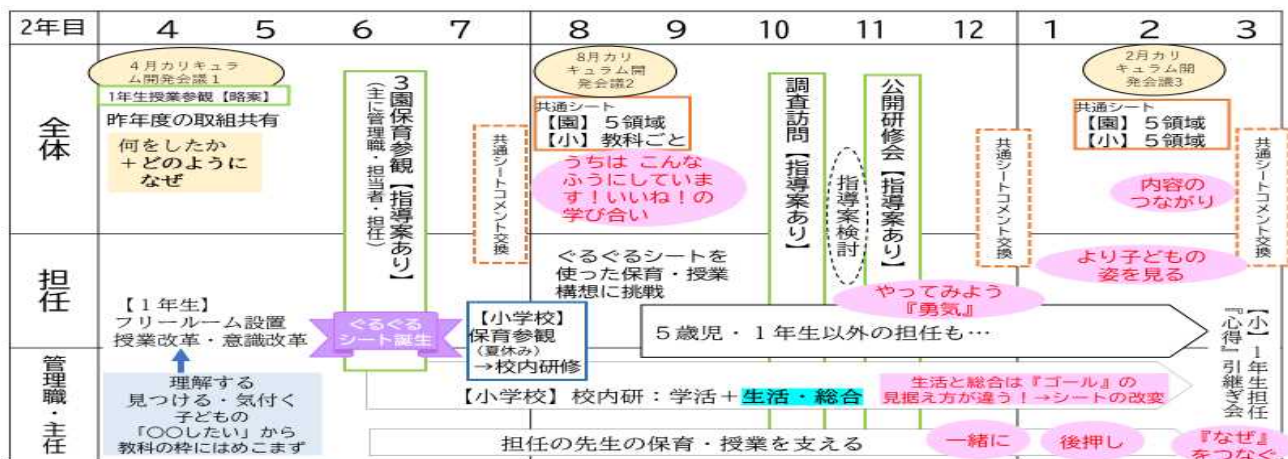
2学期は、各校園の保育・授業の相互参観と並行して、共通シートの「主な教育過程・予想される活動」を整理していくことになった。まずは、各校園で実際にやっていることを、それぞれの書き表し方でまとめることになった。

【次年度に向けて】

- ・共通シートは、小学校のシートに園のカリキュラムを表示できないため、つながりが見えない。
- ・1年目の途中から、「しんどさ」を感じるようになったことから、①指導案などの様式の「型」をそろえることより子どもの姿を実際に見合い、語り合うことを大切にする ②違いではなく共通点に目を向ける ③各校園のよさ・やり方を大切にする という共通の思いを確認し、「それぞれの一歩」をキーワードに、2年目の取組を進めていくこととした。

(2) 研究2年目

研究2年目の主な取組は、以下のとおりである。



◎昨年度の学び・気付きを生かして ～小学校の取組改善～

教室等のハード面 安心して学校生活をスタートできるよう、園で経験してきた遊び等ができるようなスペースを空き教室に設置した。その中で、他の園から入学してきた子どもとも仲良く過ごす姿がより見られるようになった。

教師の心がけ等のソフト面 子どもの「〇〇したい」を引き出したり、園の経験をもとに自信をもって行動できるように支援したりするために、「どうしたい？」「園ではどうしていたの？」といった問いかけを多くしていこうと心がけた。また、単位時間を柔軟に扱い、子どもの思いに沿った活動が展開されるよう計画した。

◎見て、語って昨年度の取組共有

会議に参加するメンバーが人事異動により一部変わった。そのため、1年目に取組改善した小学校の授業を参観して気付いた子どもの姿について語ったり、引き続き携わるメンバーから昨年度の取組について伝えたりすることで、新メンバーとの取組の共有を目指した。その際は、何をしたらただでなく、どのように取り組んだのか、なぜしたのか、といったことも伝えるように心がけた。

◎子どもの「〇〇」したいをつないでつくる保育・授業に向けて ～「ぐるぐるシート」の誕生～

園では、子どもの思いから保育の具体がつけられていた。その考え方を小学校に導入し、授業改善にどうつなげるかが大きな課題だった。その解決のために活用したのが、滋賀県版学びのサイクルデザインシート（通称「ぐるぐるシート」）である。このシートの導入により、1年生の授業改善や担任の意識改革が進んだと同時に、5歳児や1年生以外の担任もこのシートを使って保育・授業を考えるとという取組が、校園の実態に合わせて少しずつ広がった。

◎つながりが見える共通シートに

①共通する4園の活動に目を向けて

昨年度末、課題として挙がっていた共通シートの「主な教育活動・予想される活動」の部分の見直しを行った。園のカリキュラムについて、4園に共通する活動を5領域に整理した。小学校は、それを受け、校内研究で取り組んでいる特別活動と生活科を中心に置き、教科ごとに単元名を配置する形でカリキュラムを整理した。

②園と小のつながりがもっと見えるように

上記①で作成したシートは、園と小のカリキュラムが1枚にまとめられているが、園から小へのつながりが見えにくかった。そこで小学校の教科の枠を取り払い、内容等から園の5領域に合わせて単元等を配置し直した。このことにより、園の活動と小学校の学習のつながりが見やすくなり、小学校教員が、保育を見たり聞いたりして、そこでの育ちや環境構成を積極的に生かそうとする姿につながった。

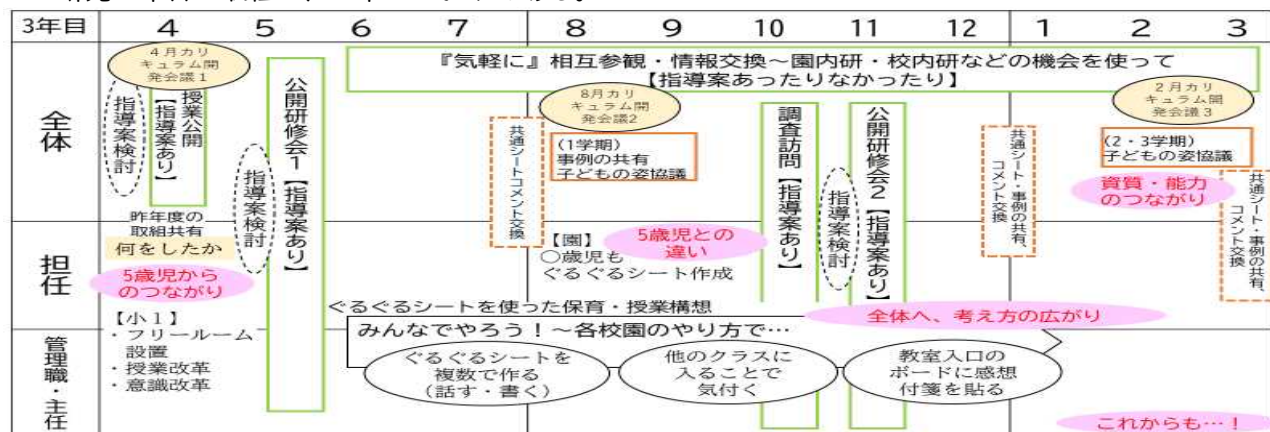
【次年度に向けて】

研究指定が終わっても「持続可能」な取組にする必要がある。

→今後も5校園で「自走」することに加え、それぞれの校園も「自走」することで、「それぞれの一步」をさらに進めることとした。

(3)研究3年目研究

研究3年目の取組は、以下のとおりである。



◎「自走」のための取組

①『気軽に』相互参観

幼保小の職員が、気軽に相互参観を実施するために、「どうぞ見に来てください！」という日程を共有し、事前の連絡がなくても自由に参観できるようにした。また、職員に負担感が生まれないように、基本的には指導案はなくてよいこととした。

②各校園のやり方で広げよう

園の中には、園内研究を行っていないところもある。しかし、担任が他のクラスの保育に入ることによって気付きを促したり、短時間の参観をした後、保育室入口のボードに感想を書いた付箋を貼ったりする等、それぞれの実態に合わせたやり方で職員の学びの場を工夫し、全ての園に広がるようになってきた。また、「ぐるぐるシート」など新しいもの・考え方を取り入れる際は、複数人で考えられるよう、話す時間を作って話す、付箋などを使ってアイデアを伝え合う等、工夫をしながら取り組んだ。

◎園から小だけでなく、小から園へ

相互参観を繰り返すことで、保育・授業改善につながった。例えば、小学校の低学年担任は、運動会に向け、園の子どもたちがテーマに沿って表現運動の動きを考えている姿から、子どもたちが音楽に合わせて動きや衣装、隊形等を考えることに挑戦した。すると担任が一方向的に教えていた昨年までと比べ、子どもたちが目を輝かせ、一生懸命練習に取り組む姿が見られた。同様に、小学校の取組を保育に取り入れた例もある。「学校たんけん」で1年生の子どもたちが自分自身で行きたい場所を決めて探検する姿を見て、ある園では、発達段階に応じてお散歩の行き先を子どもが決める場面を意図的に取り入れた。

◎活動のつながりから資質・能力のつながりへ ～共通シートのさらなる改良～

特徴的な「子どもの言葉」を共通シートに吹き出しで書き加えた。保育者・教師の心に残る「子どもの言葉」は、それが保育者・教師の目指すもの、すなわち、付けたい力(資質・能力)であると考えている。これにより、活動のつながりから資質・能力のつながりが見えてきた。

3 3年間で振り返って～次年度に向かう

これまでの取組をより発展させていくためには、教職員一人ひとりの気付きとそれを次年度以降につなげるシステムづくりが重要である。5校園の管理職は、3年間の取組により、自校園の保育・授業が変わり、子どもが変わったことを実感している。そのため、「来年度もぜひ取組を継続したい」という強い思いを持ち、来年度の体制・計画を立案しているところである。その体制・計画は、「型」ではなく、「思い」をつなげるシステムづくりとなることを目指している。保育・授業が変わり、子どもが変わると、保育者・教員も変わる。以下は本研究に関わった保育者・教師の言葉である。

- 3年間「架け橋」で育ってきた今年の5歳児は、自分たちで次々やりたいことを見つけていきます。子どもの姿を見ると、今まで私がやってきた保育って違っていったんだ、と思っています。(園)
- 今までは「レール」に乗せようと頑張っていましたが、そうではなくて、「ファーム(牧場)」のような心構えていることが大事という思いに変わりました。(小)
- 10分とかでもいいから、いつでも来てね。(園から小へ)

[illegible]

【裏面に4園分を記載】

○国語科の学習でやっていたことを
どんどん取り入れて体育科や音楽科
の学習を組み立てていくことができた。

○生活科の「がっごうだいすき」を
核として、子どもの中に「やりたい
ことをどんどん進めていけるのが勉強
強」ということが根付いた。

○色々な人と繋がり、安心感をもって
取り組むことができていた。

▲道徳・図画工教科の学習にも繋げ
ていく展開を考える必要がある。

○体育科の運動会やアスレチック大会に
合わせて自分たちで目標に書くこと
ははじまり、昔ぞうがけつりや餅つき
のダンスを会うことが次の「～したい。」
を引き出すことができた。

▲ダンスの練習で振り返りの時、大人数
の中での意見交流が難しく、少人数
のグループで話し合えるようになった。

○図画工教科の「はんがおし」と関連し
て、「運動会でもっと楽しく踊りたいの
衣装」を思い思いに制作することがで
きた。

○生活科の「したいこと」では児童との
2回の交流を実施した。おもちゃま
つりに合わせて、グループ内で相談し
たり、作り直したり、おもちゃの鑑賞
をしたりして、得意感をもって取り組
むことができた。昨年度の取組を大事に
参考にし、学習を進めることができた。

私立ありす保育園・私立金田東保育園・近江八幡市立金田幼稚園・近江八幡市金田小学校
研究主題：豊かな生活経験をする中で、
自分の思いや考えを表現し合える子をめざして

Ⅰ 主題設定の理由

上記の研究テーマは、学区就学前教育協議会の研究主題でもある。令和3年～4年度には、本市教育研究所研究員による幼保小の円滑な接続に関する研究が行われた。研究員が定期的に発行する通信により、園児の活動内容や学びの姿、環境づくりなどを、小学校教員が意識するきっかけとなった。就学前の子どもたちが様々な活動を通して学んでいる姿や内容を、その先の小学校教育において把握し、身に付けてきた見方や考え方を十分に働かせることができるよう、つなぎ伸ばしていくことが本来の連携であり、円滑な接続であると考ええる。

令和5年度の研究1年目では、10の姿から「思考力の芽生え」と「言葉による伝え合い」の2つの観点に絞り、校内研究でも同じ視点で授業や保育を参観し合ってきた。その中で、子どもたちの思いや考えを軸にした授業や保育の展開が意識できるようになってきた。これまでは「～させる」活動が多かったが、子どもたちが「～したい」「やってみたい」と心が動く活動の場を設定していきたい。今年度においても、この研究テーマを引き継ぎ、子どもたちの発達や学びのプロセスをより確かに見取っていきたいと考える。

2 幼児教育と小学校教育をつなぐ取組や架け橋期のカリキュラムに関する取組など

(1) 実施した研修会等

実施日	対象	内容等
4月12日	幼保小管理職、担当者	第1回幼保小接続連絡協議会・事業説明
4月23日	幼保小管理職、担当者、 5歳児1年担任	学びに向かう力推進事業連絡協議会
5月24日	担当者	運動会練習見学
6月12日	幼保小職員、担当者 5歳児1年担任	午前3園保育公開・午後1年公開授業 研究協議会・相互参観
6月25日	幼保小職員、担当者	幼保小接続推進会議
7月1日	5歳児1年担任、担当者	1年公開授業・交流会
7月16日	担当者、参加希望者	金田幼稚園ドキュメンテーション研修
7月22日・24日	小学校職員	保育体験
7月25日	幼保小管理職、担当者 5歳児1年担任	学びに向かう力推進事業連絡協議会 1学期振り返り・公開研修会に向けての打合せ
7月30日	1・3・6年担任、担当者	1・3・6年 指導案検討
8月1日	幼保小担当者	第2回幼保小接続連絡協議会
8月2日	5歳児1年担任、担当者	カリキュラム見直し
8月8日	担当者、参加希望者	金田幼稚園ドキュメンテーション研修
9月10日	幼保小管理職、担当者	公開研修会打合せ
10月1・2・3日	幼保小担当者	55交流
10月15日	幼保小管理職、担当者	公開研修会打合せ
10月18日	5歳児1年担任、担当者	1年音楽会練習見学・幼保小交流・指導案検討会
11月8日	幼保小職員	公開研修会 ありす保育園・金田東保育園 0～5歳児公開保育 金田幼稚園3～5歳児公開保育 金田小学校1年・3年・6年公開授業
11月26日	幼保小担当者	秋まつり
12月24日	幼保小担当者	2学期振り返り・カリキュラム見直し
1月15日	幼保小管理職、担当者	2年次まとめ

(2) 加配教員の取組

◆保育への参画について

今年度も3園の5歳児を中心に小学校職員が保育に参加した。保育の中では、言葉による伝え合いの時間を大切にされていて、そこで子どもたちは困ったことや発見したことを共有していた。園で培った力を小学校でも生かすために、1年担任に伝え、話し合いの時間や振り返りの時間を多く設けるようにした。

◆架け橋期のカリキュラムの作成・見直しについて

事業1年目は、5歳児担任、1年担任、研究主任、加配教員が中心となりカリキュラム作成を進めた。作成段階では不定期に集まっていたが、事業2年目は、学期に一度見直しをすることにした。各学期を振り返ってシートの加筆修正をしたり、実践事例を報告し合ったりすることで、お互いの保育や小学校での取組を共有することができた。

3 実践事例

【金田小学校】

スタートカリキュラム これまでの1年生の週案を参考に作成した。話したり体験したりすることを通して学ぶ発達段階にある子どもたちの姿に合わせた弾力的な時間割にするため、15分や20分単位で活動を短く区切った。一方、試行錯誤してじっくり考えてほしい時はたっぷりと時間をとるようにした。また、教師用の週案には、手遊びや読み聞かせの本、学級でできる簡単な遊びを記載した。

言葉かけ 園での育ちを小学校につなげていくために、言葉かけを意識した。「園ではどうしてた？」と園生活の経験を尋ねると、「これ知ってる！」「やったことある！」という声をたくさん聴くことができた。また、「どうしたい？」と思考を促すような問いかけをすることで子どもたちの思いを知り、そこから学習を展開することができた。

行事予定や施設環境の見直し 生活科室を学習以外でも使用できるように整備し、昼休みに自由に入出りができるよう開放した。園で使用されている玩具や絵本を参考にして配置し、ほっとできる環境づくりを行った。また、4月当初の行事予定を見直し日程や内容を変更することで、入学後の活動に余裕をもつことができた。体操服や水着に着替える時には、園での生活と同様にパーテーションで区切ったり、部屋を分けたりして対応するようにした。

読み聞かせ・図書の配置 5校時が始まる前に読み聞かせを行った。教師が椅子を置き、読む用意をすると子どもたちも自然と聴く姿勢になり、読み聞かせ後も落ち着いて授業を受けることができた。また、学校司書に季節や教科書教材に応じた本を選書して教室近くに配置してもらうことで、図書に親しむ時間が増えた。

ドキュメンテーションの掲示 金田幼稚園が保護者向けに作成しているドキュメンテーション（保育の記録）を小学校にも掲示した。幼稚園での取組が共有でき、小学校職員は、感じたことを付箋に書いて貼り付け幼稚園にお返しした。写真や細かな説明があるおかげで子どもたちが遊びの中からたくさんの学びをしていることがよく分かった。

図書室見学・学校司書によるオリエンテーション・図書委員の読み聞かせ 小学校の図書室見学を実施した。学校司書によるオリエンテーションや本の貸し出し・返却体験も同時に行った。また、昼休みの時間を活用して小学校5・6年生の図書委員が金田幼稚園に行き、読み聞かせなどの交流をした。

運動会・音楽会の練習見学 園児が実際に小学校での様子を見ることで、より1年生への憧れや期待感を強くもってもらえた。1年生も自分たちの頑張りを認めてもらえたことが自信になり、本番も頑張ろうと次の活動へと繋がった。見学後は、授業に参加してもらったり、遊んだりする時間も設け楽しく交流できた。

保育体験 夏休み中には、小学校職員がありす保育園と金田東保育園で保育体験を行い、幼児教育への理解を深めた。体験後には、10の姿に基づき、どのような姿やつぶやきが見られたかをまとめた。

授業実践 公開研修会では1、3、6年で授業を公開した。今年度は保育園、幼稚園や中学校1年生を含めた前後の学年の学習内容の接続を意識して単元を計画した。また、公開研修会までに取り組んだ2年、4年、5年の研究授業や事後検討会で学んだことを生かして当日の授業計画を行った。当日は子どもが培ってきた力を見極め、「～したい」を引き出すため実践ができた。1年生は環境調整も含めた単元構成の工夫。3年生は言語活動を軸に、特別活動の視点を含めた問いかけの工夫。6年生は子どもの思いを出発点にした学習形態の工夫。それぞれの学年や学級らしさを生かし、授業者の思いも大切にしながら

ら公開研修会に臨んだことで、子どもが主体となる授業を展開できたと考えている。

【ありす保育園】

活動を通して、自分の思ったこと、また困ったところや難しかったところなどについて、言葉での伝え合いを大切にしてきた。はじめは、いざ話そうとすると上手く言えずにいる姿があったが、保育者が思いを汲みとりながら言葉を足したり、友だちの話を聞いたりする中で少しずつ言えるようになり、意欲的に発言する姿も増えていった。また、はじめは「楽しかった」「難しかった」など簡単な感想が多かったが、「〇〇が楽しかった」「△△ところが難しかった」など具体的な感想が増え、それに対して意見やアイデアもたくさん出るようになり、次への活動へとつながっていった。

【金田東保育園】

「自分のイメージを大切にしながら、友だちと一緒に工夫をして、作り上げることを楽しむ」「友だちと工夫したり協力したりしながら、一緒に作る楽しさを感じる」をねらいとした。春から廃材遊びをする中で、自分がイメージしたものを作ることを十分に楽しんだ。自分で作ったもので遊び込み、友だち同士、見せ合うことで刺激を受け「どうやって作ったの?」「一緒に遊んでもいい?」など会話を楽しみながら友だちと一緒に作って遊ぶようになった。お店屋さんでは、自分の作りたいものを作りながら友だちの思いを受け入れ、協力したり一緒に考えて工夫したりしながら作り上げることを楽しめた。また、お店屋さんに招待するため、小さい友だちにはチケットに絵を描いてあげるなど思いやりをもって関わることができた。

【金田幼稚園】

(にじ組) 自分のやりたいことができるよう十分な時間と場所を確保し、様々な材料や道具を用意して環境を整え、幼児の思いを大切にしながら遊びを進めていくことを心がけた。自分たちで動物園を作ろうと遊びを進めていく過程で、うまくいくことばかりではなく、困り感も出てきた。遊びの振り返りをすると、困ったことに対してどうしたらよいのかを考えて、思いや考えを伝え合う姿が見られた。友だちと一緒に遊び、思いを共有し、困ったことを解決しながらどんどん動物園が作り込まれていった。



(そら組) 繰り返し試したり工夫したりすることができる場や材料、互いに思いや考えを伝え合える振り返りの時間を確保し、幼児の思いを軸にしながら遊びを進めていくことを心がけた。泥団子づくりでは、団子を作る土や団子を磨く布の質感や性質の違いに気付いたり、予想を立てたりして試しながら遊び込む姿が見られた。遊びの振り返りでは、友だちの疑問に対して自分の経験したことや考えを相手にどうすると伝わるか考えながら、意見を出し合う姿が見られている。



4 研究の成果

- ・カリキュラムの実践・修正…昨年度、作成したカリキュラムがあることで5歳児から1年生への2年間の学びを見通した実践を年度当初から行うことができた。また、学期ごとの見直しや園内研・校内研に相互参加し、「言葉での伝え合い」「思考力の芽生え」という同じ視点で、幼保小職員全員が子どもたちの姿やつぶやきを見ることができたことは大きな成果である。
- ・小学校職員の意識の変化…保育で大切にされている振り返りの時間を小学校でも取り入れたり、言葉かけを意識したりすることで、子どもの思いに寄り添った授業構成をすることができるようになってきた。また、保育者、小学校職員共に保育や授業改善に努めることができた。

5 課題と今後に向けて

事業終了後も、この2年間の取組を、持続可能な方法で継続していく素地を整える必要がある。例えば、幼保小の連絡会や保育・授業の相互参観などが充実できるように年間計画に入れることや、5歳児・1年担任の取組内容を次年度の担任へと引き継いでいくことなどが挙げられる。様々な取組を通して、小学校と3つの園がつながり、互いの保育と教育を知ることによって学びが繋がった。このつながりを大切にしながら、これからも学区全体で幼保小接続の大切さを取り入れた、子ども中心の学びを展開し続けていきたい。

	5 歳児			第 1 学年		
時期	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3
期待する子ども像	わくわく・もっともっと・聞いて！聞いて！～心が動く体験を通して思いや考えを伝え合う子～					
しまでもいいに育つ姿	思考力の芽生え 言葉による伝え合い	いろいろなものに積極的に関わり、気づいたり発見したりする	自分なりに予想し、繰り返し試したり工夫したりする	経験したことを生かしたり、いろいろな考えに触れたりしながら、よりよいものをつくりだそうとする	新しい生活や環境に慣れ、小学校の学習や活動に興味を持つ	経験したことをもとに、何度も繰り返ししたり試行錯誤したりする
こと大切にしたい	環境 単元 先生の 関わり キー ワード	自らやってみよう、もっとこうしたいと思えるような場の工夫	探究心を引き出しながら、繰り返し試せる環境づくり	考えを出し合い、友だちと協力しながら遊びを進められる場の工夫	安心して学校生活がスタートできるように園の遊びを取り入れたり、ゆったりとした学習時間の設定をしたりする	ペアやグループ活動を取り入れる 主体的に学習に取り組める導入や次の学習につながるゴール設定
		子どもの「やってみよう」に寄り添い、見守ったりきっかけをつくったりする	子どもの思いに共感し、友だちと共有できるよう働きかける	子どもの思いが実現するような関わり	子どもの話を「ゆっくり」聞く	子どもの興味と教科をつなぐ
		「やってみよう」	「どうしてかな？こうしてみよう」	「こんな風にやってみよう？」	「知ってる！聞いて聞いて！」	「もっとやってみよう！」
主な教育課程・予想される活動						
	朝の会・給食・トイレや手洗い場の使い方・帰りの会・振り返り活動・身の回りの整理整頓・あいさつ・読書・数量感覚・ものの数え方・時計・時間割・当番活動・そうじ (小学校から) 係活動・給食当番					
	○道徳、年長児になったことで、憧れていた遊びの環境に自信をもって関わっていくようになった。クラス替えはあったが、それまでの仲間関係をともに安心して遊びを楽しめるよう、2クラス間も時間帯で生活を展開するように心がけた。そのことで、幼児はやりがい遊びを意欲的に楽しむことができた。 ○やりがいのある「わっしょい」や「おんがら」など、いろいろな遊びと繰り返し試したりできるような、遊びの時間を十分に確保することが大切である。 ○あそびが、野菜の栽培では生長を楽しく観察したり、変化に気づき保育者に伝えに来ていた。色水あそびでは、色の混ざりや変化を楽しみ、また友だちと作った色を見せ合うなど、話しながら活動できた。 ○年長クラスになり、期待感と共に友だちとの関わりや会話が深まった。					
	○運動会の活動やその後の交流をきっかけとして、異年齢交流が盛んになった。その中で自ら年下の幼児に関わっていたり、遊びを楽しんでもらうための工夫をしたりする姿が見られた。 ○グループや学級全体など、多人数で遊びを展開する中で、それぞれの思いを出し合う機会を大切にしたい。自分ひとりで遊ぶだけでなく、友だちと相談すればよい考えが生まれるという経験を重ねることができ、全体の場でも安心して自分の思いを発表する姿につながった。 ○お部屋さんごっこを通してグループの友だちと意見を出しながらあそびを進めていく楽しさを味わった。自分の思いは積極的に伝えるが、相手の話をよく聴いたり受け入れたりすることは難しい場面が多く、保育者の仲立ちが必要であった。 ○自分なりの考えのもと、失敗や成功を繰り返し遊びを楽しめた。					
	○学級全体で取り組んだ劇遊びでは、お話の内容を幼児とともに制作したり、表現の方法を探ったりと、一つの目標に向かって一人一人の幼児が自分の力を発揮することができた。 ○安心して自分の思いを表現する学級の雰囲気、それぞれの幼児が主体的に活動に参加していく姿につながった。 ○発表会など、発表の機会も増え、発表の場でも安心して自分の思いを発表する姿が見られた。 ○お正月あそびでは、雪あそびや雪合戦・リレーなど、体を動かして遊ぶ活動が増え、発表の場でも安心して自分の思いを発表する姿が見られた。					
	○生活科「学校たんけん」では、探検する教室を決めるのは教師主体だったが、グループ名や旗、教室の特徴などは子どもたちが話し合っ活動に取り組めた。 ○休み時間にも進んで探検に行く子がいいた。 ○「もっともっと」 ○ザリガニ飼育では、手のひら図鑑を見て飼育に必要な道具を揃えたり、自由帳にスケッチをしたりすることができた。 ▲園での経験などを生かした授業や活動が十分にできなかった。					
	○生活科の「あきまつり」では、看板やお店の名前など友だちと相談して活動を進めることができた。園生活での振り返り活動を生かして、子ども主体で次に必要な物事を考えることができた。 ○公開研修会の国語科の授業では、子どもの「聞いて！聞いて！」「見て！見て！」という思いから授業をはじめることができた。また、話し合う活動を多く取り入れることを意識できた。 ▲音楽会やあきまつりなど、2学期に多くの行事があり慌ただしかった。一つ一つの行事での振り返り時間を確保できるようにしたい。					
	○2学期の公開研修会で取り入れた学習方法を発展させて国語科の学習を行った。付箋に自分の考えを書いて友だちと話し合ったり、図鑑を用いて調べ学習をしたりと定着が見られた。 ○1日入学では限られた時間であったが、5歳児の友だちに遊びのルールをゆっくりと伝える姿があった。1年前の自分を思い起こし、できることがたくさん増えたことを実感できた。今年度は実施できなかったが、「招待状を書きたい」「この絵本を読んであげて」という子どもたちの思いが詰まった1日入学を次年度は計画していきたい。					

研究主題:進取の心を育み、仲間と共に学びあう 雲井っ子の育成

～自ら考え、伝え合い、認め合う子どもを目指して～

1 主題設定の理由

研究1年目は、双方向性の児童及び職員の交流をさまざまな形で取り入れ、架け橋期のカリキュラムを作成し、保育・授業の質の向上を図り、切れ目なく成長を支える指導の工夫をした。また、各教科の特質との結びつきを意識しながら、既存の学習活動の中で発達の段階に応じた園との交流を取り入れ、持続的発展的な仕組みづくりを目指した。

研究2年目となる今年度は、昨年度作成した架け橋期のカリキュラムを実施し、検証・改善することや、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の中の、自立心・協同性・言葉による伝え合いに重点を置き、学びのサイクルデザインシートを活用して単元・環境・先生の関わりを工夫した授業改善を行っていくこととした。

2 幼児教育と小学校教育をつなぐ取組や架け橋期のカリキュラムに関する取組など

(1)実施した研修会等

実施日	対象	内容等
4月12日	保小管理職、加配	保小互いの顔合せと今年度の研究の方向性の打合せ
4月16日	保小管理職、主任保育士、加配	保小接続推進委員会 加配の保育園での勤務形態、保小参観交流日の設定、合同研修会などについての打合せ
4月22日 ～26日	保育士	保小参観交流 保育士による1年・2年・特支学級の参観
5月13日 ～17日	小学校教員	保小参観交流 小学校教員による保育の参観
6月3日	保小全職員	合同研修会 昨年度の取組と今年度4、5月の実践 「保育・授業参観からみる10の姿」の交流感想 指導主事からの指導助言
7月10日	保育士（希望）、小学校教員	1年生研究授業
7月23日 ～26日	小学校教員	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を見る視点においた保育体験
7月29日	保小全職員	合同研修会 園児の活動している動画から10の姿を発揮しているところをグループで話し合う 保小互いに持ち寄った学びのサイクルデザインシートの交流 大学教授・指導主事からの指導講話
8月29日	主任保育士、教務、加配、 1年担任、5歳児担任	架け橋期カリキュラムの見直し 指導案検討 指導主事からの指導助言
9月17日	保育士（希望）、小学校教員	5年生研究授業
9月27日	保育士、小学校教員（希望）	2歳児研究保育
10月10日	保育士、小学校教員（希望）	3歳児研究保育
10月30日	県内校園からの希望者、 保小全職員	公開研修会 4・5歳児公開保育 1年生公開授業 大学教授・指導主事からの指導講話
11月11日	保育士、小学校教員（希望）	1歳児研究保育
11月29日	保育士（希望）、小学校教員	6年生研究授業
12月12日	保育士、小学校教員（希望）	0歳児研究保育
1月9日	保小管理職、主任保育士、 教務、加配	保小接続推進委員会 今年度の総括、次年度への提言 指導主事からの指導助言
1月27日	保育士（希望）、小学校教員	3年生研究授業
2月4日	保育士（希望）、小学校教員	2年生研究授業
3月末	保小管理職、主任保育士、 教務、加配	保小接続推進委員会 カリキュラムの改善、次年度へ向けて

(2)加配教員の取組

◆保育への参画について、保育の準備、打合せへの参加について

4月の保小接続推進委員会での打合せで、毎日9:30～12:30の時間を保育園での勤務とし、園児たちが一番活動している時間に設定した。主に4・5歳児クラスを中心に参画したが、同じ階に全ての園児のクラスがあり、園庭では0～5歳児全員が遊んでいる時間もあったため、4・5歳児だけに限らず、保育園の全園児をみる事ができた。園内研にも参加し、園で大事にしていることなどを学ぶことができた。特に環境設定の部分は小学校も参考にできることがあり、職員に周知し、取り入れることができた。

毎週金曜日の11:30～12:30に園管理職、主任保育士、4・5歳児担任、加配が打合せをする時間を設けたことで普段の何気ない疑問や園・小がどのような活動をしているのかを互いが具体的に知ることができた。また、来年度1年生になる園児の実態や家庭状況などを園職員から詳しく聞くことができたことで、より滑らかな接続をすることができると感じた。

加配教員も保育者同様に園でのさまざまな活動をサポートすることで、園児たちの成長や幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を具体的に活動場面の中で見取ることができた。

◆架け橋期のカリキュラムの作成に向けて（別添資料①）

2年目の今年はカリキュラムの実施・検証・改善の期間にあたるので、1年目に作成したカリキュラムの通りに進めていった。所々活動の内容が変更になった部分があったため、その都度、5歳児担任と1年担任の意見を加配が吸い上げ、カリキュラムに反映させていった。8月や3月には保小接続推進委員会のメンバーによるカリキュラムの改善などについて話し合った。

3 実践事例

(1)学びのサイクルデザインシートの活用（別添資料②）

雲井小学校区では幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のうち「自立心」「協同性」「言葉による伝え合い」に視点を絞り、学びのサイクルデザインシートに反映させて合同研修会や園内研、校内研などの際に活用した。また、小学校では学びのサイクルデザインシートの中に、学習指導要領に明記されている指導目標も記載することとした。園内研や校内研に参加できなかった保育士・教諭には後日、加配教員から学びのサイクルデザインシートを回覧し、全職員が目を通すようにした。共通形式である学びのサイクルデザインシートを用いた交流をすることによって、より具体的な園児・児童の様子を話し合い、学びについての深い協議をすることができた。保育の考え方や授業づくりを互いに知ること、連続した育ちを共に支えていく関係であることを、より強く意識できるようになった。

(2)連続した学びを意識した保育・授業

具体的な例として、雲井小学校区では地域の特徴を活かし、保育園から小学校6年生まで信楽焼を作る活動がある。4・5歳児では地域の方をゲストティーチャーとしてお招きし、大量の土粘土に触れ、靴を作ったり、長細くして繋げてみたりと、全身を使って遊びに浸ることができた。活動の最後には自分の好きな立体作品をつくることができた。1年生では、子どもたちが保育園のときから扱っている身近な存在としてある土粘土を教材とし、10月に図画工作科で「すなやつちとなかよし」の学習活動を設定した。子どもたちは豊かな発想で海の生き物を想像して作ったり、ペアやグループで海の生き物たちの住処を作ったりすることができた。



4 研究の成果と課題

架け橋期の滑らかな接続の方策を検討し、実践した。具体的には、単位時間の弾力的運用をしたり、登校後、安心して過ごせる場づくりをしたりして、子どもたちの声に今まで以上に耳を傾け、自分でできること、支援が必要なことを見直し、子どもたちに任せるところを増やした。

加配教員がいることにより、保育園と小学校相互の心の距離が近くなり、保育士と教員間での連携がとりやすくなった。加配教員としてさまざまな活動を2年間見取ることにより、小学校の学習活動や生活環境を保育園までの経験を踏まえて設定したり、児童への声掛け、環境設定、子どもが主体となるような授業改善をしたりすることができた。小学校教諭目線で保育園の活動に加わったことにより、保育園側も新たな見方をすることができ、保育改善につながった。研修や交流の機会を設定することで加配教員だけでなく、全保育士、教員が雲井小学校区の一員として子どもたちの成長を継続して支えていく意識が芽生えた。

来年度になると、人事異動で新たに雲井小学校区へ赴任する保育士・教員がいる。年度当初に過去2年間取り組んできたことなどを周知する機会をつくり、改めて幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を全職員が共通して理解し、積み上げることで、滑らかな接続を改善していくことが大切だと感じた。

「遊び」の環境づくりや保育者の関わりから、「学ぶ意欲」を引き出すことを大切に、自らの興味関心を生かす環境構成や、必然性のある課題を解決する学習活動を設定し、授業改善の視点につなげることができた。

保育士・教員が互いに保育や授業を参観し、取組の様子や大切にしていることを知ることができた。特に、小学校の全教員が「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識しながら園児の活動を参観したり、保育体験したりする研修によって、「遊び」の中に仕込まれている「学びや育ち」に対する見取り方について理解を深めた。また、幼児期に育まれてきている資質・能力を小学校での学習につなげていく大切さについて共通認識することができた。

小学校では担任が基本的に毎年変わるため、1年生の担任が年度当初にならなければ判明しない。良くも悪くも指導は担任の匙加減次第によるところが多くあるため、誰が1年生を担当しても滑らかな接続ができるようにしていかなければならないと感じた。

来年度からは加配教員がいなくなるため、この2年間の取組の中で培った経験を生かしながら持続可能な接続をしていく必要がある。

5 今後に向けて

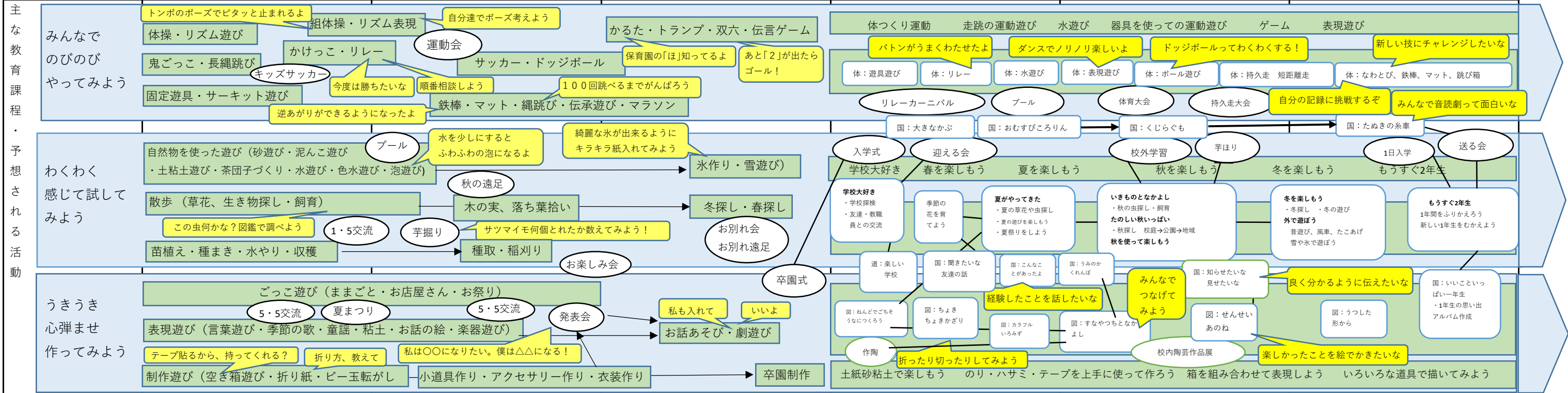
加配教員の業務を可能な限り引き継いでいくことが大事になる。必要なことを取捨選択し、持続可能な保小接続を進めていきたい。次年度の保小接続については、今年度中に加配教員で、ある程度の構想を立て、保小接続推進委員会にて周知していく。園の活動の中で培ってきた力を生かすために、学ぶ意欲を大切にしながら学習のめあてを達成する授業や、園の環境の工夫や生活の流れを取り入れたスタートアップ期の場の設定、時間の枠組みなど、今実践している取組をさらに工夫し、改善していきたい。

誰が1年生の担任になっても、滑らかな接続ができるように小学校入学当初は幼児教育との指導方法の連続性・一貫性を確保していく。そのためには、4月当初に保小連絡会にて保育園ではどのような環境で過ごしていたのか、園児だった時の生活態度・遊んでいるときの具体的な姿などを話し合い、連携を強化していく。

保育園では、幼児の活動が生まれやすく展開しやすいように意図的・計画的に環境を構成し、幼児一人ひとりの発達の特性に応じた指導を行っており、集団生活の中で幼児が互いに影響し合うことを通して、一人ひとりの発達を促していることから、小学校でも「環境を通して行う教育」を取り入れていきたい。

令和6年度 雲井保育園・雲井小学校 架け橋期カリキュラム

		5 歳児			第 1 学年		
時期		4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	8 ・ 9 ・ 1 0 ・ 1 1 ・ 1 2	1 ・ 2 ・ 3	4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	8 ・ 9 ・ 1 0 ・ 1 1 ・ 1 2	1 ・ 2 ・ 3
期待する子ども像		やりたいな、おもしろいな、できた、仲間と地域と共に育つ子ども　～自他を大切に～					
幼児期の終わ りまでに育っ てほしい姿	自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。			これまでの経験を活かしながら、興味のあることに自ら根気よく取り組み、やり遂げる喜びや達成感を味わう経験を重ねることで自信をもつ。		
	協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。			新しい人間関係や環境の中で、友達や周囲の人と関わりながら、協力して活動する楽しさや、共に考え工夫を生かす良さを味わう。		
	言葉による伝 え合い	先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。			先生や友達との関わりの中で、自分の思いを言葉で伝えたり、相手の意見を聞いたりすることで、言葉による伝え合いやいろいろな考えを交流する良さを楽しむ。		
大切にしたい こと	単元環境	・夢中になって遊べる時間と場所の保障。 ・材料や用具を選択しじっくりと考えて取り組んだり、やってみたい、もっとやりたいと思える環境の工夫。 ・友達と相談したり、協力したりして、思いが共有できるような場づくり。サークルタイムなどの振り返りの工夫			・園での体験を学習に生かしながら、自らさまざまな教材を生かして、試したり工夫したり、友達と共感しあったりすることができる環境。 ・サークルタイムなどの振り返りの工夫を継続して行っていく。		
	先生の関わり	・子どもが安心して自分の思いや考えを出し、身近な環境の中で意欲的に活動できるように関わる。 ・見通しをもち自ら考えて行動し、自分の力でやり遂げる満足感や達成感を味わえるように認め、共に喜ぶ。 ・一人ひとりが自己発揮しながら、友達と一緒に考え、行動する楽しさや面白さを共有できるようにつなげる。 ・互いの良さや考えを認め合いながら、考えたり工夫したりして遊びを発展させられるように見守る。 ・友達の話を開いたり、考えを言葉で伝え合ったりする喜びを感じられるような環境の工夫をする。			・園の活動とつながる時間枠設定や環境づくりでステップを踏み、なめらかな接続を目指す。 ・生活科や体育科、音楽科、図画工作科を中心に、遊びや音楽を生かした活動を取り入れ、主体的、意欲的に取り組む課題を設定する。 ・受容的な関わりで、できていることを認める。 ・活動の見通しやめあてが分かり、自分で学びを進められるように環境を整え、支援を工夫する。 ・話し合い活動や協力して取り組む活動を意図的に計画し、達成感を持てるふりかえりの場を設定する。		
	キーワード	やってみたい、おもしろいな、できた、もっとしたい、仲間と共に学びあう。					



振り返り	たくさん散歩に出かけ、草花を集めたり、おたまじゃくしの飼育をしたり、自然に触れる機会をたくさん作ることができた。また、戸外では茶団子作りに挑戦したり、土粘土で全身を使ってダイナミックに遊んだり、夏ならではの活動をたくさん経験することができた。室内では空箱を使って、自由制作することを楽しみ子の姿がたくさん見られた。	サークルタイムを通して自分の意見を伝えたり、友だちの話を聞こうとしたりする子の姿が増えた。他のクラスの友だちがお店に来てくれたことを喜び、お店をよりよくしていこうと子ども同士が話し合いながら遊びを進めていく姿が見られ、お店屋さんごっこを楽しんでいた。	寒さに負けず戸外で元気に遊んだ。ドッジボールなどのルールのある遊びを繰り返し楽しみ、自分たちで線を引いたり、ルールを作ったりしながら遊ぶ姿が見られた。雲井小学校1年生とドッジボール対決をしたり、加配教員の先生に授業をしてもらったりしたこと、小学校に向けて期待を持つ姿が見られた。	昨年度の振り返りより、学校探検を子ども主体の課題解決型学習としておこなった。児童の「なぜ?」「やってみたい」「もっとしたい」などの声を大事にし、学習を進めた。また、教室の後ろ側一部に畳を置き、子どもたちが朝の用意が終わった後や、休み時間に自由に工作できるスペースを保育園同様に設けた。入学当初の担任の声掛けも「保育園ではどうしてた?」と児童に問い返し、保育園からの切れ目のない接続を意識した。	雲井小学校区では地域の特色を活かし、保育園～小学校6年生まで信楽焼を作る活動がある。滑らかな接続を意識し、子どもたちの身近な存在としてある土粘土を教材とし、10月には図画工作科で「すなやつちとなかよし」の学習活動を設定した。子どもたちは豊かな発想で海の生き物を想像して作ったり、ペアやグループで海の生き物たちの住処を作ったりすることができた。	生活科の「もうすぐ2ねんせい」の学習では、入学説明会の際に5歳児が来校することを伝え、「今年僕たちが2年生にもらったおもちゃランドみたいな遊びをしてあげたい」と声が挙がった。サークルタイムを活用し、5歳児が楽しめる遊びをみんなで考えることができた。お絵描きや磁石迷路、ボーリングをするために必要な材料を自分たちで考え、作ることができた。試したり工夫したりしながらより良い遊びになるために活動することができた。
------	---	---	---	--	---	--

		第1学年		
時期(月)		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3
期待する子ども像		やりたいな、おもしろいな、できた、仲間と地域と共に育つ子ども　～自他を大切に～		
てりほ ま し い に 姿 育 つ わ	幼児 期の 自立心	これまでの経験を活かしながら、興味のあることに根気よく取り組み、やり遂げる喜びや達成感を味わう経験を重ねることで自信をもつ。		
	協同性	新しい人間関係や環境の中で、友だちや周囲の人と関わりながら、協力して活動する楽しさや、共に考え工夫を生かす良さを味わう。		
	言葉による伝え合い	先生や友だちと関わりの中で、自分の思いを言葉で伝えたり、相手の意見を聞いたりすることで、言葉による伝え合いやいろいろな考えを交流する良さを楽しむ。		
幼稚園 の 終 わ り ま で の 育 つ の ほ し い 姿 が		生活科「学校探検」	図画工作科「すなやつちとなかよし」	音楽科「にほんのうたをたのしもう」
		最初に教師が「学校の事をどれくらい知ってる」と尋ねると、一年教室以外はあまり知らないということが分かった。そこで「学校の中はどうなっているんだろう」と問いかけてみると子どもたちの声から「あまり知らないから調べてみたい」というような声が上がった。子どもたちは身近な環境に主体的に関わり、学校探検を楽しもうとしていた。そこで子どもたちの調べたいという思いを尊重し、「どうやって学校のことを調べていく」と尋ねたところ、「学校の中を探検して、いろんなものを見つけない」と答えた。発達段階として文字の読み書きを活動に入れるのは困難だと担任が判断した。そこで2グループに分かれ、タブレットを使って児童が気になったところを担当の教員が写真を撮影し、校内を探検することにした。	1学期に陶芸の森へ赴き、作陶体験を行った。また、紙粘土を使い、生活科の「なつまつり」でお店屋さんごっこで使用するごちそうを作り、粘土に慣れ親しんだ。このような粘土を使った活動では、子どもたちがいきいきと活動に取り組んでいた。油粘土の学習に取り組む中で、子どもたちから「もっとたくさんの粘土があったらいいのにな」という思いが出てきた。そこで、保育園の頃にも触れており、扱いに慣れている土粘土を大量に用意し、安心して活動できる環境を整えた。	保育園のときにはたくさんの歌を歌う活動をしている。今回の学習では保育園での活動を活かし、わらべうたについて知り、親しむことができた。
		学校探検では自分が疑問に思ったことや不思議に思ったことを意欲的に探していた。自学級に戻り、電子黒板で写真を共有し、抱いた疑問や不思議に思ったことを友だちに言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりすることができた。	初めに、久しぶりの土粘土だったため、触れ合う時間を作った。子どもたちは久々の土粘土の感触を楽しみ、踏んだり投げたりこねたりと、体全体を動かして活動に取り組んでいた。	まず授業の導入で「さんちゃんが」を聞いた。児童は全員「さんちゃんが」を知らない様子だった。教師が黒板に「さんちゃんが」の歌に合わせて絵を描き、「これ絵描き歌っていうんやで」と伝え、アンパンマンの絵描き歌で例えると「知ってる」
		出てきた疑問や不思議に思ったことを「どうやって解決したらいいと思う」と問いかけると「知ってる先生に聞いてみたらいいやん」との声があがり、インタビューをすることを子どもたちと決めた。誰に聞いたらいいか尋ねると、子どもたちの知っている学校の先生の名前が出てきた。	次の時間には、個人で作品を作る時間を設けた。同時期に国語科で「うみのかくれんぼ」という題材を扱っていたので、教師の見本として海の生き物を提示したところ、「自分たちも海の生き物をつくりたい」と話し、活動に取り組んだ。活動の中で、「こんなん作ったで」「それおもしろいな」と友だちと関わる中で、互いの思いや考えなど共有しながら作品作りをする子どもの姿が見られた。	「ドラえもんをやつとかある」と子どもたちから声が挙がった。「さんちゃんが」の絵描き歌をCDに合わせてタブレットで描くと、「難しい」という意見が出てきた。そこで、教師の伴奏に合わせて絵描き歌に取り組んだところ、一人ひとりが音の高さや抑揚に気をつけて歌いながら絵を描くことができた。子どもたちも、慣れてくると「上手に描けたで」と嬉しそうに友だちと絵を見合っていた。
		インタビューでは、子どもたちが自分の疑問を解決できそうな教員を選び、グループに分かれて質問を考えた。分かったことを友だちと共有するなかで、「誰かに伝えたい」という思いや願いが出てきた。	その後、大きな粘土の塊を渡したところ、1人の子どもが陸地を作り始めた。	また、「こんなわらべうたがあるよ」と提示すると「知ってる」と声をあげ、口ずさむ姿が見られた。実際にみんなで歌おうとすると「歌は知っているけど動きが分からない」という児童もあり、知っている児童が手本を示していた。
		そこで、学習参観の時に保護者に見てもらおうということになり、地図を作製して掲示することにした。	その後、大きな粘土の塊を渡したところ、1人の子どもが陸地を作り始めた。	「おおなみこなみ」では、数人の児童が手本を見せると、全員が「やりたい」と縄跳びの前に列をつくり、全員が体験した。歌いながら縄を跳ぶことでわらべうたの拍を感じ取ることができた。「おちゃらかほい」や「げんこつやまのたぬき」などの手遊びのある歌では、教師と手遊びを知っている児童が手本を見せると、自然と友だちとペアを組み、楽しそうに取り組むことができた。
		学習が終わった後も、休み時間に学校探検に行く様子が見られ、疑問に思ったことや自分の興味があることに対して主体的に解決しようとする姿が見られた。	絵を描いたり工作をしたりすることが好きで、休み時間にも積極的に制作活動をしている。その中で、今までは個人個人で活動して満足していたのが、友だちに「かわいいな」と伝えたり、描いてほしいものをお願いしたりして、考えたことや思ったことを言葉で伝える姿が見られた。	保育園で経験した「歌遊び」が音楽科の学習で活かしている姿が見られた。

【単元の工夫】議題や提案理由などに児童の
思いを反映させ、切実感のある活動にする。

【先生の関わり】児童が自治的能力を発揮できるように、
児童の主体的な姿勢に肯定的な声かけを行う。

合意形成

体育館での巨大すごろくであれば、誰でも楽しめる。

すごろくのマスに、班で協力したり、お互いのことを知ったりする活動を入れることで、仲を深めることができる。

当日の役割は、司会とはじめの言葉・終わりの言葉でいいかな。

班ごとに駒を用意する必要がある。

司会用にマイクを作ろう。

サイコロを転がすよりも、タブレットのルーレットの方が待ち時間が短くなる。

ルーレットを回す人とコマを進める人で、役割を分けると効率よく進行できる。

ルールの改善

次回の学級活動

学級会での話し合い

- ・役割分担
- ・準備
- ・練習

当日の様子

学級会で話し合って、みんなの仲を深めるために、どんな遊びをすればいいか考えよう。

小学校は「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」を踏まえた**指導を工夫**

ドッジボールや鬼ごっこ、ダンスは、一部の人だけが楽しむ活動になってしまう。

思い出に残る活動にするために、普段の休み時間にはできないことをしたい。

マスは全員で分担して作ろう。それぞれのマスには、仲を深められるような活動に加えて、6年生で体験した行事のエピソードを入れよう。

スタートやゴール、その他の特殊なマスは手が空いている人で作ろう。

体育館を広く使えるように、マスの並べ方を工夫しよう。

仲を深めることはできたが、ゴールするまでに時間がかかり過ぎてしまった。

次回は、その活動にどのくらいの時間がかかるかよく考えよう。

提案理由に基づいた比べ合い

準備②

ふり返り

滋賀県版

学びのサイクル【単元の工夫】議題や提案理由などに児童の【先生の関わり】児童が自治的能力を発揮できるように、
デザインシート思いを反映させ、切実感のある活動にする。児童の主体的な姿勢に肯定的な声かけを行う。

③ 合意形成

普段の休み時間にはできない遊びをすることで、思い出に残るお楽しみ会になる。したことのない遊びから選ぼう。

④ 役割分担

当日の役割は、司会とはじめの言葉・終わりの言葉だけでなく、タイムキーパーも必要だ。それぞれの遊びで時間を計る人を決めておこう。

⑦ 時間内に遊びを終えることができた。どの遊びも普段の休み時間にはできないものばかりだったので、思い出に残る会になった。次も自分たちが中心となって学級活動に取り組みたい。

教育実習生の先生 とのお別れ会



学級会での話し合い



当日の様子



ふり返り



⑧ 子どもたちが主体となって、教育実習生の先生とお別れ会の企画と準備、当日の進行を行うことができた。これまでの学級活動の経験を生かして、プレゼントを作成したり、電子黒板を活用したりすることができた。



① 1学期の最後に楽しい思い出を作るために、どんな遊びをすればいいか考えよう。

② 前回のお楽しみ会では、予想していた時間を過ぎてしまったから、余裕をもって遊びの時間を設定しよう。

⑤ 遊びの順番は司会が決めよう。効率よく場づくりができるように、机や椅子の移動が少なくて済む順番にしよう。

⑥ 遊びの順番を黒板に書いてみんなに伝えよう。
遊びの点数を黒板を使って集計すれば、チームごとの点数が分かりやすい。

小学校は「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」を踏まえた**指導を工夫**

自主的、実践的かつ創意工夫のできる活動を通して、信頼し支え合って、楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることができるようにする。

事後活動

研究主題:つながりの中で たくましく学ぶ子ども

～学びのサイクルを意識した取組を通して～

1 主題設定の理由

湖西中学校区の園小中＋高一貫教育の目標として、「つながりの中で、たくましく学ぶ子どもの育成」を掲げている。本地域の子どもたちは、決められたことには一生懸命前向きに取り組むことができる。しかし、自分の考えに自信がもてず、うまく表現できないため、友だちとの学び合いの中で、自分の考えや思いを深め、主体的に学びに向かっていく力は弱いと感じる。

そこで、本研究では、自分の思いに自信をもって伝えたり、自己の考えや思いを深めたりして学ぶ意欲を伸ばしていくために、「学びのサイクル」を意識した保育・授業研究を行う。互いの校園の保育・授業を参観したり、保育に参加したりする中で、それぞれの子どもの学びを見取り、子どもの育ち、学びがスムーズにつながるように実践していく。

2 幼児教育と小学校教育をつなぐ取組や架け橋期のカリキュラムに関する取組など

(1)実施した研修会等

実施日	対象	内容等
4月 2日	園小管理職、加配、保育参事	事業打合せ（ねらい確認、活動計画）
4月18日	園小管理職、加配、保育参事、 幼児保育課参事	園小接続推進委員会（実施計画、子どもの実態把握、研究主題設定、加配教員勤務計画など）
5月 9日	園小管理職、加配、保育参事、 幼児保育課参事	園小接続推進委員会（期待する子どもの姿、めざす10の姿、園小交流計画）
5月16日	園小管理職、加配、保育参事、 学校教育課主監、幼児保育課参事	園小接続推進委員会・・・県主査・指導主事 （実施計画の運用、デザインシート作成など）
6月14日	園小中一貫教育園小部会部員	南小区での取組について、交流計画
6月17日 ～19日	園職員	小学校の授業参観
6月20日	園小管理職、加配、保育参事、 幼児保育課参事	園小接続推進委員会（架け橋期カリキュラム立案、公開研修会計画）
6月26日	小学校教員	園研への参観
7月～8月	小学校教員	保育参加
7月24日	園小管理職、加配、保育参事、 1年担任、4・5歳児担任	架け橋期カリキュラム編成委員会
8月21日	園小中＋高一貫教育部会部員	びわこ学院大学教授奥田先生の講演
8月28日	園小管理職、加配、保育参事、 学校教育課主監、幼児保育課参事 4・5歳児担任、1年担任	園小接続推進委員会・・・県主査・指導主事 （公開研修会指導案検討）
10月25日	園小管理職、加配、保育参事、 学校教育課主監、幼児保育課参事	園小接続推進委員会（公開研修会について）
10月31日	園小管理職、加配、保育参事、 4・5歳児担任、1年担任	奥田教授との懇談（保育授業参観を通して）
11月15日	園小職員、外部参会者	公開研修会・・・大学教授、県主査・指導主事
12月13日	園小管理職、加配、保育参事、 学校教育課主監、幼児保育課参事	園小接続推進委員会（公開研修会振り返り、今後の取組）
2月13日	園小管理職、加配、保育参事、 学校教育課主監、幼児保育課参事	園小接続推進委員会・・・県主査・指導主事 （スタートカリキュラム検討）
3月初旬	園小管理職、加配、保育参事、 5歳児担任	園小連絡会（5歳児の引き継ぎ、スタートカリキュラムの取組について）

(2)加配教員の取組

①保育への参画について

4・5歳児の保育に参画した。園児の活動の様子を見取り、保育者の子どもへの関わり方や環境作りについて学んだ。子どもの「やりたい!」を引き出す環境作り、季節の移り変わりを考えた環境作りは学ぶところが多かった。自分で考えどんどん活動していく子どもの主体性を育むために、保育者は子どもの様子から絶妙なタイミングで言葉がけをしたり、遊びが発展するように環境を再構成したりしていた。その言葉がけや環境作りが子どもの学びに働くためには、保育者が子どもたちの思いを十分にくみ取っていること、遊びのストーリーを思い描いているということ、どう育ってほしいかというねらいをもっているということが大切で、小学校においても同じだと感じた。また、子どもが「もっとやりたい」とねばり強く学びに向かうためには、心が動く体験が必要であると感じた。



②保育の実際、子どもの実態についての振り返りについて

参画したクラスの子どもの様子や保育者の保育のねらいなどについて話す場をもった。保育者が子どもをどのように見ているのか、どのような学びをねらいとしているのかについて話を聞く中で、職員が子どもについての情報を共有し、保育・授業に生かしていくことの大切さを感じた。

③架け橋期のカリキュラムの作成に向けて

4・5歳児担任、1年生担任、保育参事、加配教員が中心になって作成を進めた。まず、園小管理職、加配教員、保育参事で期待する子ども像を考えていった。子どもの実態を協議する中で、「やってみたい」「もうちょっとがんばろう」「もっともっと」と子どもが学びを深めていくには、心が動く体験が必要不可欠であること、どうしようかと考える力、そして、ねばり強く取り組む力が大切であることが出てきた。そこで、期待する子ども像を「心が動く体験を通して 自分の思いをもち 主体的に取り組む子」とし、5歳児、1年生の姿を具体的に考えていった。さらに、これを受けて、4・5歳児担任、1年生担任が主な活動をあげていった。その際、どのようなねらいで活動を行うのかを大切にし、そのねらいや学びを引き継いでいくことを再確認した。

3 実践事例

(1)互いを知る取組(授業参観・保育参観・保育参加・校内研究等での研修)

1学期に、園から授業参観、小学校から保育参観を行ったり、夏休みには、小学校職員が保育参加を行ったりし、学びのつながりについて見つけたことを紙面交流した。また、小学校では校内研究会で、加配教員が保育に参画する中で見取った子どもの学びの様子や保育者の援助の様子について研修を行い、共通理解を図った。園での保育の様子に触れ、保育者の援助の様子や子どもの遊びの中での学びについて考えた。互いの遊び・学習の様子を知り、それぞれの保育・授業に生かしていく大切なポイントを見つけるなど、互いに視野を広げることができた。

(2)保育・授業改善

子どもの実態を協議する中で、大切にしたい「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」や具体的な目指す姿を共通理解した。それらを達成していくために、1年生の児童がこれまでの経験を思い出し、学びを積み上げられるような言葉がけを意識したり、児童の「やってみたい」という願いや思いを生かしながら児童とともに授業展開を考えていったりした。

1年生の生活科では、たっぷりと自然に関わったり、遊びに没頭したりする経験から友だちと相談



する、相手を意識して考える、活動のゴールまで長時間継続して取り組むなど活動が広がり、仲間とやりきる楽しさを味わった。

園では、保育者がねらいをもって、子どもの「やってみたい」を引き出す環境設定をされていた。その中で子どもたちのやってみたいに「どうする?」「どうしたらいい?」「やってみようか」と子どもたちが考えられるように言葉がけをし、子ども同士で考えを出し合い、遊びを調整できるようにしたり、クラスの時間に遊びの様子を共有したりしていた。

(3) 児童交流（５・５交流、１・５交流）

小学校入学に対して不安を減らし、期待を伸ばしていくために、各学期に１回程度５年生と５歳児との交流、２、３学期には１年生と５歳児との交流を行った。その他にも運動会の練習参観や音楽会参観などの行事に５歳児を招待した。５歳児は、小学校での体験を通して、自分たちの活動にさらに意欲的になったり、小学校進学への楽しみがふくらんだりした。

4 研究の成果と課題

【成果】

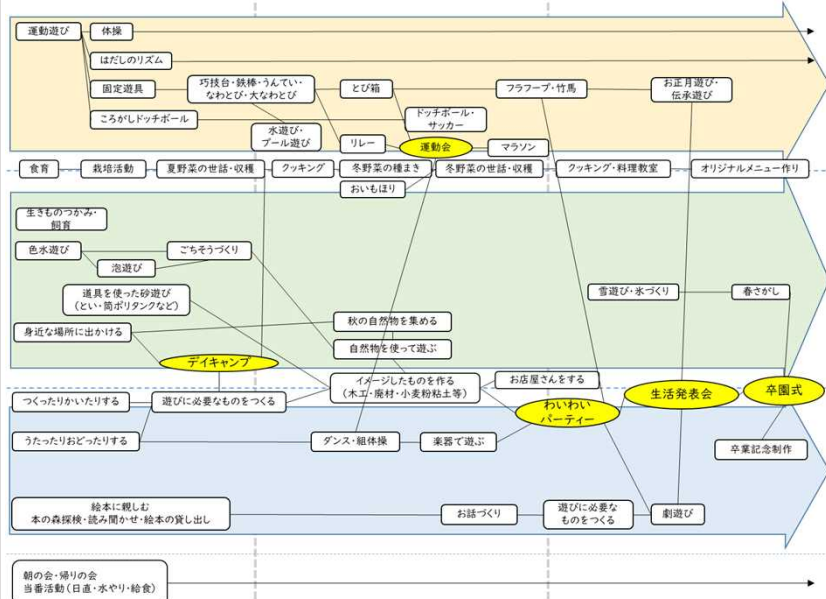
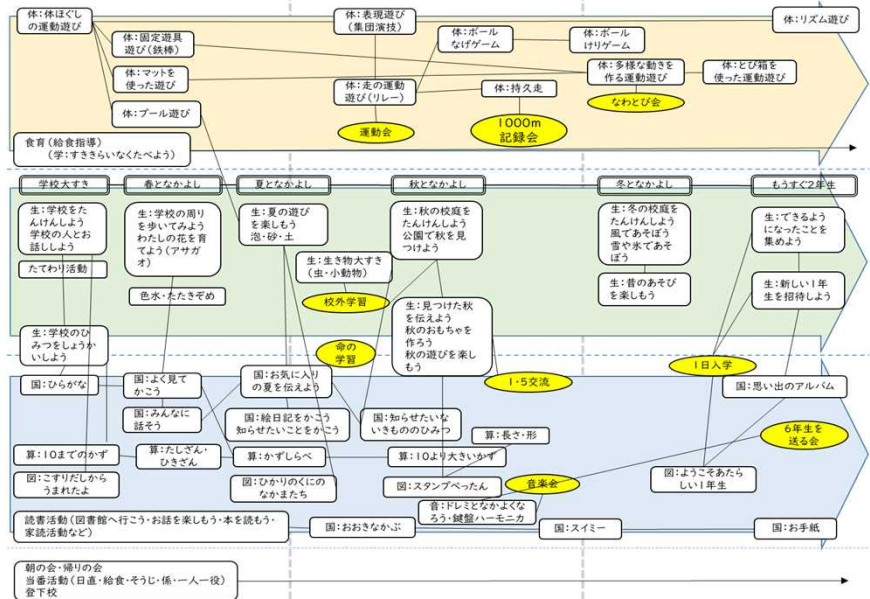
- ・子どもの実態を協議するなど、園と小学校の職員が気軽に話し合える関係が深まった。また、今まで行ってきた児童交流についても互いのねらいに沿った取組が行えるよう計画等がスムーズに行えた。
- ・保育や授業を互いに見ることができ、子どもたちの様子や大切にしていることを知ることができた。また、子どもの実態について話す機会が増えた。このことで、学びや育ちのつながりが見えてきて、保育や授業の中でつながりを意識することができた。
- ・園での「やってみたい」を引き出す環境設定、保育者の関わりから、小学校での「やってみたい」を生かした単元構成、環境構成を意識する授業改善につなぐことができた。
- ・園での遊びを通した学びや育ちを知ること、園で培われてきた資質や能力を発揮し、伸ばしていく活動を小学校の生活、学習を通して仕組んでいかなければならないと再確認できた。
- ・児童の交流を通して、児童同士も互いを知ったり、交流体験から自分たちの活動にさらに意欲的に取り組んだりすることができた。
- ・保育者や教師からの問いかけによって、自分で考えたりやってみたりする経験が増え、友だちと協働して活動する姿が見られるようになった。

【課題】

- ・気軽に話し合える関係になったが、まだまだ一部の職員による取組になっている。保育参観、授業参観する時間を確保するのが難しかった。継続的に情報交換したり、参観し合ったりする工夫が必要である。
- ・どの年齢学年も学びのつながりを意識した保育・授業改善を考えていく必要がある。
- ・園での環境や生活の流れを生かしたスタートカリキュラムの工夫が必要である。
- ・活動のねらい（ゴール）を見通して、話し合ったり考えたりしながら、学習や遊びを調整していく力はまだまだ弱い。

5 今後に向けて

- ・互いの様子を知り、授業・保育改善に生かすために、保育参観、授業参観、保育参加を継続していけるよう工夫する。
- ・本年度作成したカリキュラムを実践・検証し、よりつながりを意識した保育・授業改善を行う。
- ・４、５歳児、１年生にとどまらず、全年齢・全学年で学びのつながりを意識して保育・授業改善を行う。
- ・５歳児の学びや育ちを踏まえて、より具体的なスタートカリキュラムを工夫する。

5 歳児				第 1 学年		
時期	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	9・10・11・12	1・2・3
期待する子ども像	心が動く体験を通して 自分の思いをもち 主体的に取り組む子					
	・人やモノと関わりながら自分で決め、思いや考えをもって取り組む子 ・やってみたい、できた、もういっかいとじっくりと遊ぶ子			・自分の思いを伝えたり、友だちの思いをきいて考えたりする子 ・知りたい、できるようになりたいという思いをもってねばり強く取り組む子		
幼児期の終わりに姿を育つ	自立心	『やってみたい』『こうしてみようかな』『もっとやってみよう』という意欲をもち、人やモノとじっくり関わろうとする。	『もう1回やってみよう』とくり返しあきらめずに取り組み、『できた』『もっとやってみよう』と満足感や自信をもって生活する。	これまでの経験を生かして、興味をもってチャレンジし、あきらめないでやりとげることの喜びや楽しさを味わう。	自分の考えを伝えたり、友だちの考えをきいたりしながら、ねばり強く納得するまで取り組み、達成感や自信をもつ。	
	思考力の芽生え	いろいろな素材や自然物に積極的にに関わり、自ら考え、試したり工夫したりする。	友達と思いやアイデアを出し合いながら、考えを深めたり広げたりする。	これまでの経験や友だちの考えをもとに試行錯誤して物事に取り組む。	自分でじっくり考えたり、友だちと考えあったりして、課題を解決する。	
大切にしたいこと	環境単元	・子どもが自ら考えられるような様々な道具や素材を用意し、必要な物を選んで使えるような環境を整える。 ・子どもの考えや思いが実現できるように、とことん向かえる環境づくり		学びや成長を実感できる年間掲示物、話し合い活動（ペア・グループ）の工夫、学びの広がりやつながりを生む教材、教具の工夫、園での経験を生かした単元導入の工夫、柔軟な時間設定、発意・構想・構築表現・省察のサイクルを意識した学習活動		
	先生の関わり	・子どもの気付きやつぶやきに心をよせ、一緒に考える関わり ・見通しをもち自ら考え、やり遂げる姿を認め、満足感や達成感を味わえるようにする。		一人ひとりのよさやがんばりを認め合える学級作り、園での経験を引き出す言葉かけ、見通しの持てる視覚支援、自分の考えてやってみて「できた」という実感が味わえるように最低限の指示、子ども・環境・学習をつなぐ支援、主体的な学び・再構築を意識した課題設定や発問の工夫		
キーワード	きらきら（心が動く体験） うきうき（いろいろ考え） どんどん（あきらめないで・ねばり強く・主体的に取り組む）					
主な教育課程・予想される活動	体を使って 自然と関わって 表現して 生活 					
	振り返り			振り返り		
	自然物や様々な素材とじっくり関わったことで、気付きや疑問、考えが生まれ、くり返し試行錯誤する経験につながった。また、保育者は子どもの思いによりそい、とことん遊べるように関わったことで、満足感を味わい、さらなる意欲につながった。			新しい環境の中で、園での経験を生かし、「もっとやってみよう」という気持ちをもって活動に取り組むことができた。生活科を中心に子どもたちの「やってみたい」が生まれ、活動の原動力になるような学習づくりに取り組んでいく。		
	秋の自然物や、身近な素材を使って遊ぶ経験を積み重ね、試したり工夫したりする中で、友達とイメージを共有し、広げていながら、自分たちで遊びをすすめられた。保育者は、達成感や満足感が味わえるようにするとともに、子どもたちの疑問や困り事に対し、お互いの思いを出し合えるようにしたり、一緒に考えたりしたことで、新たな発見や発意につながった。			1年生の児童が昨年どんな経験を積んできたのかを園の先生に聞きながら学習の進め方を検討していた。特に生活科の秋の活動で園での学びを元に単元構想を行った。子どもたちは、友だちと話し合いながらやることを決めて、学習に取り組む姿が見られた。		
朝の会・帰りの会 当番活動（日直・水やり・給食）			朝の会・帰りの会 当番活動（日直・給食・そうじ・係・一人一役） 登下校			

		5歳児			第1学年
時期		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7
期待する子ども像		心が動く体験を通して 自分の思いをもち 主体的に取り組む子			
		・人やモノと関わりながら自分で決め、思いや考えをもって取り組む子 ・やってみたい、できた、もういっかいとじっくりと遊ぶ子			
しいまで に育っ てほ	幼児期 の終わ り	『やってみよう』『こうしてみようかな』『もっとやってみよう』 という意欲をもち、人やモノとじっくり関わろうとする。			『もう1回やってみよう』とくり返しあきらめずに取り組み、『で きた』『もっとやってみよう』と満足感や自信をもって生活する。
	自立心 思考力 の芽生	いろいろな素材や自然物に積極的にに関わり、自ら考え、 試したり工夫したりする。			友達と思いやアイデアを出し合いながら、考えを深めたり広げたりする。
幼児期の 終わりに までに 育って ほしい 姿が 見られ た		5歳児 ぽろぽろ 4月上旬～5月上旬 【新旭南小学校区】園名（静里なのはな園） ・ねらい 友達と思いを出し合って、ルールのある遊びをする楽しさを味わう。『幼稚園の終わりにまで育ってほしい姿』 ・保育者の視点 友達と一緒に工夫したり、試したりしながら、遊びがすすんでいくか。 ・保育者の関わり ・自立心 ・意欲力の芽生え （※読み取り・考察） 保育者との信頼関係に 支えられた生活 5歳児 そろぐみ 4月下旬～5月上旬 【新旭南小学校区】園名（静里なのはな園） ・ねらい 友達と一緒にアイデアを出し合いつながり、どんぐりコースターづくりを楽しむ。『幼稚園の終わりにまで育ってほしい姿』 ・保育者の視点 友達と一緒に工夫したり、試したりしながら、遊びがすすんでいくか。 ・保育者の関わり ・自立心 ・意欲力の芽生え （※読み取り・考察） 保育者との信頼関係に 支えられた生活 5歳児 6月下旬～7月上旬 【新旭南小学校区】園名（静里なのはな園） ・ねらい デイキャンプの振り返りの中で自分の思いを伝えたり、振り返りの思いをいっしょに振り返りを通して育ってほしい姿。 ・保育者の視点 友達と一緒に工夫したり、試したりしながら、遊びがすすんでいくか。 ・保育者の関わり ・自立心 ・意欲力の芽生え （※読み取り・考察） 保育者との信頼関係に 支えられた生活			
		5歳児 ぽろぽろ 11月 【新旭南小学校区】園名（静里なのはな園） ・ねらい 友達と思いを出し合って、ルールのある遊びをする楽しさを味わう。『幼稚園の終わりにまで育ってほしい姿』 ・保育者の視点 友達と一緒に工夫したり、試したりしながら、遊びがすすんでいくか。 ・保育者の関わり ・自立心 ・意欲力の芽生え （※読み取り・考察） 保育者との信頼関係に 支えられた生活			
		5歳児 そろぐみ 11月上旬～ 【新旭南小学校区】園名（静里なのはな園） ・ねらい 友達と一緒にアイデアを出し合いつながり、どんぐりコースターづくりを楽しむ。『幼稚園の終わりにまで育ってほしい姿』 ・保育者の視点 友達と一緒に工夫したり、試したりしながら、遊びがすすんでいくか。 ・保育者の関わり ・自立心 ・意欲力の芽生え （※読み取り・考察） 保育者との信頼関係に 支えられた生活			

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が見られた
子どもの学びの姿

研究主題:意欲的に学び 自分の思いや考えを表現する子どもをめざして
～思いを表現し 学びをつなげられる子～

1 主題の設定の理由

本地域の子どもたちは、与えられた課題には真面目に取り組むことができる一方で、課題に対して主体的に実践する力、自分なりの思いや考えを相手に分かりやすく伝える力、初めてのことや苦手なことに向かおうとする力に弱さが見られる。そこで、子どもたちの「やってみよう」「やってみよう」が高まるような遊びや学習を考え、幼小接続を通して思いや考えを伝え合い、子どもたちの学びたいという意欲を伸ばすような保育・教育の実践をしたいと考え研究を進めることとした。

2 幼児教育と小学校教育をつなぐ取組や架け橋期のカリキュラムに関する取組など

(1)実施した研修会等

実施日	対象	内容等
4月 2日	幼小担当者・5歳児担任	・加配教員の幼稚園での勤務に向けた打合せ
4月12日	全管理職・幼小担当者	・幼保小接続連絡協議会（顔合わせ、打合せ）
4月22日	全管理職・幼小担当者 町教委	・幼保小接続推進委員会 ・研究課題と研究テーマ、年間実施計画について
5月23日	1年・5歳児担任 幼小全職員	・幼保小連絡協議会（1年授業公開、情報公開） ・指導主事の指導講話
6月 7日	1年・5年・幼小担当者	・授業見学（音楽集会練習、学校探検）
6月10日	幼小担当者	・カリキュラム編成会議
7月29日	幼小全職員	・合同研修会（大学教授、指導主事の講話、グループ協議）
10月 2日	小全職員・5歳児担任	・授業見学（運動会練習）
10月17日	1年・5歳児担任	・幼保小交流会（打合せ）
10月28日	1年・5歳児担任 全管理職・幼小担当者	・5歳児保育、1年生授業参観 ・指導案検討、指導主事の指導講話
11月 7日	1年・5歳児担任	・幼保小交流会
11月19日	1年・5歳児担任	・幼保小交流会（振り返り、打合せ）
11月20日	全管理職・幼小担当者	・公開研修会（打合せ、準備）
11月27日	全教職員	・公開研修会、公開保育、授業、研究協議 →大学教授、指導主事からの指導講話
12月11日	全管理職・幼小担当者	・公開研修会の意見交流会、振り返り
1月17日	1年・5歳児担任 全管理職・幼小担当者	・今年度の取組振り返り（中間まとめ） ・来年度に向けて
2月 4日	1年・5歳児担任	・幼保小交流会、5・5交流会打合せ
2月13日	幼・小学校関係職員	・入学説明会、5・5交流会
2月19日	1年・5歳児担任	・幼保小交流会
1月31日	幼小全職員	・合同全員研修会
3月予定	研究推進委員会	・架け橋期カリキュラム編成
3月予定	5歳児担任・小担当者	・幼保小連絡会（新1年生情報交流）

*3歳児（うさぎ・りす組）、4歳児（いちご組）の園内研・小学校校内研への相互参加

(2) 加配教員の取組

◆保育への参画（保育の準備・打合せについて）

年間を通して、秦荘幼稚園に週15時間（火曜日・木曜日）勤務し、幼稚園5歳児クラスを中心に保育に参画した。園では、幼稚園教員とともに子どもの活動を支援したり、保育準備をしたり、保育者の動きを近くで見たりすることで、小学校教育との違いや繋がりを学ぶことができた。先生との関わりや環境構成を工夫することにより、子どもたちの「したい!」という気持ちがさらに引き出されると感じた。さらに、活動の最後に振り返りをするすることで、遊びを通して気付いたり分かったりしたことを、個人としてだけでなく集団として共有し、振り返りでの発言が次の遊びへと発展していくことを学んだ。遊びを通して学ぶ保育の中で培われたこの力を、小学校でも取り入れていけるように、加配通信などで発信するようにした。

◆架け橋期カリキュラムの作成に向けて

架け橋期カリキュラムについて、5歳児クラス担任、園の研修主任、加配教員が中心になり作成を進めた。まず、本校区の子どもたちの実態について互いに考えを出し合い、幼稚園・小学校で大切にしたいことや共通する課題から、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の「自立心」「言葉による伝え合い」を重点にし、「やってみたい」「できた」が実感できる活動につながるよう、各校園それぞれのよさを生かしながら作成を進めていった。

3 実践事例

◆加配通信の発行

幼稚園で子どもたちとともに活動し、園での子どもたちの具体的な活動の姿やつぶやき、それに対する保育者の支援や声掛けを中心にどのような学びをしているのかを、通信「つながり」として発行し、幼稚園・小学校の全職員に回覧した。また、園や学校の他学年の取組が分かるように、学年通信や園だよりなども回覧し、関係教員だけでなく全教職員で共有するようにした。



【加配通信 つながり】

◆合同研修会の実施◆



【夏の全員合同研修会の様子】

多様性に配慮しながら、すべての子どもの可能性を引き出し、ウェルビーイングを保障すること。」「互いを知り、子どもを見る視点を共通化し非認知能力・生きる力・学ぶ力・人や物との関わる力を共に伸ばしていくこと。」全教職員が環境構成の重要性と、幼小接続の必要性について考える機会となった。

その後のグループ協議では、小学校と幼稚園の子どもの姿から、“自立心”“言葉による伝え合い”“つけたい力”について話し合い、夏の合

園内研修会・校内研修会へ保育・授業の参観や、協議会に相互に参加することで、互いの教育の違いや、指導の在り方について学び合うことができた。互いの教育や保育について知り、子どもの成長の過程を理解し合うことで、授業改善や保育改善に繋がった。

夏の全員合同研修会を実施した。指導主事より、本事業についての説明、「幼保小連携」と題して、中井教授にご講演いただいた。

講話より、「幼児期の探究心において、危ないからしてはダメではなく、ダメにならない環境にしておくことが大切であること。」「一人ひとりの子どもの



【グループ協議の様子】

同研修会を通して、子どもたちの課題について全教職員が共有することができた。

◆交流会の実施◆

小学校の行事を中心に、5歳児が小学校に来る機会を多くつくった。

1学期は5歳児が、6月の音楽集会の練習見学、1年生と5年生の練習を見せてもらい、休み時間には5年生から楽器の使い方を習い、幼稚園にはない楽器に触れることができた。合わせて校舎内も探検した。

2学期は、10月に運動会の練習を見学した。休み時間には、幼稚園の園庭にはない小学校の遊具で遊ぶことができた。シーソーでは、5歳児が落ちないように、1年生が優しく教える姿が見られた。

11月は、1年生が生活科の「楽しい秋いっぱい」という単元で、どんぐりや葉っぱなどの秋の物を使った工作などをして楽しかった経験から、「年長さんにも楽しんでもらいたい」と、幼稚園・保育園の園児を秋祭りに招待した。

この秋祭りでは、幼保小の職員間で事前の打合せと、終わってからの振り返りの場を設け、3学期の交流についても話し合った。

また別の日には、小学校で開催していた絵の本広場に、今まではバスで連れて来てもらっていた5歳児が、遠足で金剛輪寺まで歩いた経験を生かして、小学校まで歩いて来ることができた。

3学期は、お正月遊びや、幼保小でかるたを一緒に作って遊ぶなど、小学校入学説明会(1日入学)で5年生との“5・5交流”も予定している。



【シーソーで遊ぶ様子】



【園児が学校探検する様子】



【秋祭り準備 グループ活動の様子】



【秋祭り お店屋さん】

4 研究の成果

幼稚園と小学校の互いの教育のよさを知ることを中心に研究を進め、保育・授業の参観や話し合う機会を設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を踏まえ、それぞれの教育で大切にしていることや目指す子どもの姿を共有することができた。

加配教員が保育に参画して子どもと活動することにより、幼児期の子どもたちの遊びの中にどのような学びがあるのかを伝え、それを小学校教育で生かすためにはどうすればよいのかを考え、幼児教育を取り入れた授業づくりを意識するようになった。

5 課題と今後に向けて

相互の理解と連携をさらに深めるため、園や小学校の教員が互いの保育や授業を気軽に参観できる体制を整えていく。また、参観後には意見交換の場を設け、保育・授業の改善に努めていく。そして、この取組全体を、幼稚園と1年生(関係教員)に限定せず、全教職員が参加できるよう工夫していく。

さらに、滑らかな接続を目指して、今年度作成した「架け橋期カリキュラム」をもとに実践と検証を行い、子どもたちの成長を切れ目なく支える指導の在り方や、カリキュラムを発展させ、よりよいものにしていく。そして、架け橋期にとどまらず、幼児期から小学校卒業、さらには中学校までの子どもたちの学びや育ちを長期的な視点で見守り、支えられるカリキュラムの検討を行っていき、保育・教育の質を高めていきたい。

		5 歳児			第 1 学年		
時期		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3
期待する子ども像		意欲的に学び、自分の思いや考えを表現できる子どもをめざして					
姿で幼児期の終わってほしいま	自立心	5 歳児になった喜びを感じ、遊びや活動に意欲的に参加をしようとする。	自分なりに目的をもって取り組み、やり遂げる喜びを味わう。	意欲的に取り組み、充実感や満足感を味わいながら自信をもって行動しようとする。	興味をもって色々なことにチャレンジし、「できた」という経験をたくさんする。	「できた」経験をともに、自信をもってチャレンジ続ける。	
	言葉による伝え合い	自分の思いや感じたことなどを言葉で伝えたり、友だちの思いを聞いたりする。	自分の思いや感じたこと、経験したことなどを伝えたり、友だちの思いに気づき共感したりする。	友だちと一緒に思いや考えを出し合い言葉のやりとりを楽しみながら、遊びを進める。	先生や友だちとの関わりを通して聞く力を付ける。読書活動を通して豊かな言葉の方法を身に付ける。	相手の意見を受け入れながら聞き、自分の思いや考えを伝えられる。	
大切にしたいこと	環境単元	・自らやってみたいと思えるような環境の工夫。 ・やってみたいと思えるような素材や道具の準備。 ・友だちと思いや考えを共有できる場の設定。 ・遊びが継続できる場の設定。			・園で経験してきたことを踏まえて、さらに発展させる単元構成する。 ・やってみたいと思う、単元の出口を準備し、それに向けて学習を深めていける単元計画。 ・友だちと自分の考えを伝え合えるグループ活動の工夫。		
	先生の関わり	・子ども一人ひとりが安心して自分の思いを話せるよう関わる。 ・子どもの「やってみたいな」の思いに寄り添い、きっかけをつくったり見守ったりする。 ・友だちと思いや考えを共有できる時間や場の設定。			・子どもたちの話を聞く。 ・一人ひとりの思いを大切にしながら、友だち同士をつなぐ支援をする。 ・「やってみたい」と思える学習の設定をする。		
	キーワード	「やってみみたいな」			「できたよ」「楽しいな・もっとやってみよう」		
主な教育課程・予想される活動							
		朝の会・帰りの会・振り返り活動・読書・給食・あいさつ・当番活動・そうじ・時間の意識・トイレや手洗いの場、身の回りの整理整頓（幼稚園）→（小学校）幼稚園から引き継ぎ当番・係の活動・学習と広がっていく					
振り返り		・友だちを誘い合って好きな遊びを楽しむ中で、新しい環境に慣れていた。 ・遠足や給食等のグループ活動では、話合いの中に教師と一緒にいることで思いの伝え方や進め方を知らせるように援助したことで、互いに気持ちを伝え合うことができた。 ・いちごやじゃがいもの収穫を通して地域の人とふれあったり、生長に興味をもったりして自然とのふれあいが学びを深めた。			・話し始める時に合図を送ると聞く姿勢をとることができるようになってきた。 ・学級遊びを通して、子ども同士をつなぎ、安心して活動に取り組めるようになった。 ・国語の学習で言葉集めを行い、語彙が増えた。		
		・やってみみたいことや遊びを友だちや教師と一緒に考えたり、教師が子どもたちの思いに寄り添ったアイディアを提案したりして、実現できた喜びを味わっていた。そうした経験が積み重なり、自らやってみたい思いを伝える姿が増えてきた。 ・友だちの思いを聞いたり、自分の思いを伝えたりすることをくり返す中で、同じ目的に向かう意識が高まっていた。 ・友だちがしていることに興味をもち互いに刺激を得ることで、さらにやってみようとする姿が増えてきた。			・学級会で児童自身が話合いを進めていけるようになった。 ・授業の導入でキャラクターなどを使いながら課題を示したり、ゴールを設定し提示することで、児童がやってみたいと意欲的に学習に取り組むようになった。 ・グループ活動をたくさん取り入れることで、自分の思いを友だちに伝えることができる子どもが増えた。		

☆すぐに遊び出せるように、スコップやバケツなど用具を分類して出しておく。

☆遊びの姿に応じて、台や水を運ぶ台車を用意する。

◎教師も一緒に作りながら、思いの実現ができるように、作りたいイメージを引き出し
たり、アイデアに共感したりする。

◎振り返りでは、友だちに知らせたり見てもらったりして関心や意欲を高め、明日の遊
びにつながるように、子どもの思いに寄り添ったり気持ちを代弁したりする。

＊年中時にしていたそうめん流し遊びを始める姿
が見られ、「長くつなげたい。」「水を流したい。」と
工夫して遊ぶ姿が見られる。

＊今までの経験から必要な道具や用具を選んで遊
びを進めている。

＊それぞれの作りたいイメージが友だちと一緒に
遊ぶ中で、自然と共有されて同じ目的をもって遊ぶ
ようになっていった。



水汲んできた～
入れてー！

てっぺんにのせよう！
階段作った！
コンクリートのせやすいで！



＊コンクリートを一緒に作っていく中で、土と水の量を調整しながら作
っていることがわかった。また、混ぜ方が本物をイメージさせるもので
あった。

＊コンクリートの感触を子どもたち同士で確かめながら、完成まで繰り返
し作る姿が見られた。

＊それぞれの思いが一方通行になっていることもあった。そのような時
は、教師も遊びながら仲介し、子どもの思いを代弁したり、言葉で話せ
る場をつくったりして橋渡しをするようにした。

もう少し水入れよう！
コンクリートはもっと
トロトロやで！



大きい山を作ろう！富士山や！！

水と砂でコンクリート
ができるんやで！



穴を掘るんやで～ぐるぐる～



富士山、固めよう！

崩れてくるな…

混ぜるの疲れてきたな～



いい感じになってきた！
コンクリート工場です♪
もっと混ぜなあかん！

◎子どもの考えやアイデアを認めたり、共感したりして満足感や意欲につなげていく。
◎遊びの状況や子どものつぶやきを汲み取り、同じ場で遊ぶ友だちに広げ、目的を共有
できるようにする。
◎「コンクリートってどうやって作るの？」「富士山ってどんな山かな？」と尋ねること
でイメージを広げたり共有したりできるようにする。

＊『富士山』という共通のイメージができたことで「もっとこうしよう」と思いやイメージを広げていく
姿が見られ、自然と友だちと役割分担をして遊びを進めていく姿が見られた。

＊それぞれが一つの穴でコンクリートを作っていたが、友だちと一緒に混ぜて作るようになり、同じ目的
をもって遊びを進めていった。

＊振り返りを通して、作ったものを実際に見ることで、クラスみんなで富士山やコンクリートをどのよう
に作っていくかのイメージを共有することができた。

☆すぐに遊び出せるように、スコップやバケツなど用具を分類して出しておく。

☆遊びの姿に応じて、台や水を運ぶ台車を用意する。

◎教師も一緒に作りながら、思いの実現ができるように、作りたいイメージを引き出し
たり、アイデアに共感したりする。

◎振り返りでは、友だちに知らせたり見てもらったりして関心や意欲を高め、明日の遊
びにつながるように、子どもの思いに寄り添ったり気持ちを代弁したりする。

＊年中時にしていたそうめん流し遊びを始める姿
が見られ、「長くつなげたい。」「水を流したい。」と
工夫して遊ぶ姿が見られる。

＊今までの経験から必要な道具や用具を選んで遊
びを進めている。

＊それぞれの作りたいイメージが友だちと一緒に
遊ぶ中で、自然と共有されて同じ目的をもって遊ぶ
ようになっていった。



水汲んできた～
入れてー！

てっぺんにのせよう！
階段作った！
コンクリートのせやすいで！



＊コンクリートを一緒に作っていく中で、土と水の量を調整しながら作
っていることがわかった。また、混ぜ方が本物をイメージさせるもので
あった。

＊コンクリートの感触を子どもたち同士で確かめながら、完成まで繰り返
し作る姿が見られた。

＊それぞれの思いが一方通行になっていることもあった。そのような時
は、教師も遊びながら仲介し、子どもの思いを代弁したり、言葉で話せ
る場をつくったりして橋渡しをするようにした。

もう少し水入れよう！
コンクリートはもっと
トロトロやで！



大きい山を作ろう！富士山や！！

水と砂でコンクリート
ができるんやで！



穴を掘るんやで～ぐるぐる～



富士山、固めよう！

崩れてくるな…

混ぜるの疲れてきたな～



いい感じになってきた！
コンクリート工場です♪
もっと混ぜなあかん！

◎子どもの考えやアイデアを認めたり、共感したりして満足感や意欲につなげていく。
◎遊びの状況や子どものつぶやきを汲み取り、同じ場で遊ぶ友だちに広げ、目的を共有
できるようにする。
◎「コンクリートってどうやって作るの？」「富士山ってどんな山かな？」と尋ねること
でイメージを広げたり共有したりできるようにする。

＊『富士山』という共通のイメージができたことで「もっとこうしよう」と思いやイメージを広げていく
姿が見られ、自然と友だちと役割分担をして遊びを進めていく姿が見られた。

＊それぞれが一つの穴でコンクリートを作っていたが、友だちと一緒に混ぜて作るようになり、同じ目的
をもって遊びを進めていった。

＊振り返りを通して、作ったものを実際に見ることで、クラスみんなで富士山やコンクリートをどのよう
に作っていくかのイメージを共有することができた。

☆校舎の中を探検

＊みんなで教室を見てまわる。自分たちの教室以外にも理科室や家庭科室のように、今まで知らない教室や教具に触れ、もっと知りたい、使ってみたいという気持ちが高まる。

＊職員室やろう下で、知らない先生に出会う。先生と仲良くなりたいという気持ちが芽生える。

【本単元でつきたい力】

○自立心

・子どもたちからの「～したい」から次の計画を立てる力。

・もっと知りたいことを、もう一度進んで調べに行く力。

○言葉による伝え合い

・グループで質問を考えたり、先生にインタビューしたりすることで、相手のことを意識して考え、自分の言葉で話す力。

◎教師の顔写真を見せながら、「この先生見たことある？」
＊「お姉ちゃんの先生！！ろう下で見たことある。」

先生たちにインタビューしよう！！
先生たちにどんな質問をするかグループで考えよう。

準備・計画をたてる
話し合おう

先生に質問しよう

校庭には何があるのかな？探検してみよう。

校庭に虫探しに
でかけよう！！

虫探しに行きたい

遊具であそぼう

ふりかえり

計画をたてる

運動場には遊具がたくさんあるね。遊具で遊んでみたい。

校庭の森の中には
自然いっぱい！！
見てみて！虫がいたよ。

ふりかえり

みんなで考えた質問
して、先生のことを
知りたい！！

ふりかえり

職員室に先生がいたよ、
先生と仲良くなりたい！！

小学校にはどんな教室があるのかな？校舎内全部の教室を見てみたい！！

◎学校にはどんな部屋があるかな。

＊「おもちゃのある部屋がある。」

＊「いろんな道具が置いてある部屋があった。」

→見に行ってみよう。

＊子どもたちのつぶやきからスタート

◎先生にインタビューして仲良くなろう。「どんなことが聞きたい？」

◎子どもたちのつぶやきから、質問の選択肢を作る（8つぐらい）

＊先生たちの好きなものが聞きたい！！

＊自分たちの好きなものも伝えたい。

☆子どもたちの「～したい」を大切に次の活動へつなげる

＊先生と仲良くなりた

＊運動場も探検したい

＊遊具で遊んでみたい

＊虫探しに行きたい

☆春から夏に虫の種類が増え、さらに秋見つけへと発展し、2学期へつながる。

